

2016年5月26日(木)18:15-19:30

立命館大学衣笠キャンパス洋洋館 研究会室③

ミルクと社会主義

—乳利用からみたモンゴル牧畜社会の近代的変容—

富田敬大（立命館グローバル・イノベーション研究機構専門研究員：人類学）

牧畜民にとって、ミルクは肉と並んで重要な食料資源です。モンゴル国においても、「白い食べもの」と総称される乳製品類と、「赤い食べもの」と総称される肉類が二大食品として食生活を支えてきました。社会主義時代には、肉だけでなく、毛や乳などそれまで家庭内の需要にあてられることの多かった畜産物が、食品・工業原料として地域外に向けて生産されるようになりました。本発表では、この畜産業化の進展とともに、地方での畜産物の生産、消費、流通がどのように変わったのかを、乳・乳製品に焦点をあてて考えてみたいと思います。



バターの生産目標を掲げたポスター



ウシの搾乳の様子

(ともに British library EPA264 より転載)

立命館大学環太平洋文明研究センターは「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」ことを目的としてつくられた人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。

お問い合わせ先：環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335

立命館大学環太平洋研究センターHP：<http://www.ritsumei.ac.jp/research/rcppc/>